

（株）藤里開発公社の令和元年度上半期経営状況について

株式会社藤里開発公社の令和元年度上期（４～９月）の経営状況について、１２月定例議会で報告しましたので公表します。

令和元年度上半期において、藤里開発公社は定期的な部門長会議を中心に位置づけ、営業方針の企画策定や業務改善、経費の削減を実施してきました。全体の売上高では、前年比95.5%、6,768千円の減となりました。

減収の主な要因は、水生産部門で、販社・水の会員の利用は昨年並みでしたが、今期の関東地方の冷夏により、大口取引先の需要が伸びず、売上げが昨年対比13,336千円の減収となり、これらにより水生産部門全体では13,978千円の減となりました。

売上原価は、各部門長との会議において、改善すべき点の改善と経費の削減や棚卸在庫の無駄をなくすことを徹底し、今年度上半期全体では、33,135千円と昨年対比で83.5%、6,525千円の減となりました。

また、全体の販売費及び一般管理費は、114,537千円で、昨年対比で100.7%、760千円の増となりました。町補助金を含めた経常利益は、8,768千円となり、昨年対比で37.8%、14,382千円の減となりました。

下半期においては、引き続き赤字圧縮を目指し、更なる改善と営業に努力していきたいと考えております。

令和元年度上半期決算状況

（単位：千円）

科 目	R 1 実績	H 3 0 実績	比 較
売 上 高	110,110	128,251	△18,141
加 工 手 数 料	4,854	4,664	190
指 定 管 理 料	29,117	17,934	11,183
総 売 上 高	144,081	150,849	△6,768
売 上 原 価	33,135	39,660	△6,525
売 上 総 利 益	110,946	111,189	△243
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	114,537	113,777	760
営 業 損 益	△3,591	△2,588	△1,003
営 業 外 収 益	13,902	27,532	△13,630
営 業 外 費 用	1,543	1,794	△251
上 半 期 純 損 益	8,768	23,150	△14,382

主な事業、実績概要につきましては、以下のとおりです。

●ホテル部門

４月・５月での大型連休でネット予約の宿泊客が多く、満室状況が続き、売上に大きく貢献できました。

下半期については、上半期に実施した社員・パート従業員への接遇研修会（電話対応・接客サービス等の心得）での講習を活かした接遇の実行と、予約状況に合わせた仕入れ、物品の丁寧な取り扱い、無駄のない勤務シフトの作成等で経費削減に努めながら、冬季の販売商品の早期PR（おせち料理・忘新年会プランなど）を実施するなどして集客を図りたいと考えております。

●健康保養館

今年度より第二・第四火曜日を休館日とし、保養館の修繕及び清掃に力を入れてきました。また、本年１０月から入館料を５０円アップしましたが、ご利用者のお客様からは、特に苦情はありません。ポイントカードの利用促進や飲料業者とタイアップしたイベントも行っていますが、劇的に利用者が増加することには結びつきませんでした。今後、好評を頂いている企画は引き続き継続し、新しい企画も実施しながら利用促進を図って行きたいと考えています。

下半期においても厳しい営業が続くと予想されますが、イベントの実施（ゆず湯、もちつき大会など）や冬季限定のホテルとの共同プランの販売などで集客を図りたいと考えています。

●加工センター

今年度から新たに開始した「蓬」や「笹」などの天産物の加工や購入した「柿」をドライフルーツ加工する事業などを通し、地域の皆様に所得向上の場となるよう進めてまいりました。

「白神ラム」はPRの成果が現れて販売は好調ですが、生産頭数に限りがあるため売上高は頭打ちとなっています。新作アイスの開発・販売やPBアイスの販売につきましても、道の駅などでの販売拡大に努めております。下半期では、より安全な商品を提供する環境にしていきたいと考えています。

●水生産販売部門

売上高は昨年対比で大幅な減となっております。大きな要因としましては、関東地方で冷夏のため需要が伸びなかったことや大口取引先の取引中止などがあげられます。下半期では、新規取引先の確保と一般管理費の圧縮及び資材ロスの管理を徹底し、売上の増進を目指して努力してまいります。